

和歌山大学教育学部3年 三好 航太さん

新聞を使った小高連携の授業を参観して、高校生が小学生を授業に引き込むための工夫が印象的だった。具体的には、小学生が自分の意見を示しやすくするためにKJ法（情報を整理したり、問題解決のアイデアを考えたりする手法）を用いたことや、活動中に各班にいた高校生の「いっぱい書いてくれてありがとう!」「これいい意見やね!」といった声掛けが素晴らしいと感じた。

また、小学生の災害に対する知識の多さや、新聞から必要なことを読み取る力、それを根拠として自分の意見をまとめる力などが目にとまった。

和歌山大学教育学部4年 坂本 一輝さん

（高校生の説明にあった）南海トラフ地震を過去の大地震と比較することで、地震の規模や被害がどれだけ甚大なのかを実感することができたり、能登半島地震の実情や震災当時の新聞を用いたりすることで、子どもたちが防災について考えるきっかけになる授業だった。横尾小学校で行われた防災学習の授業を参観させていただいたことで、各教科の授業においても、防災に関連した授業を行っていく必要があると感じた。

和歌山大学教育学部4年 平野 莉子さん

授業を参観させていただき、改めて防災の意識を持ち続けるために、世代を超えて継承していくことの大切さに気付かされたと同時に、私もこれまで大学でたくさん防災の勉強をしてきましたが、これを教師になった時に子どもたちと共にどのように考えるのか、そして、被災者の方が伝えてくれたことを教師としてどのように語り継ぐのか、改めて考えさせていただく機会となりました。